

2023年10月13日 第3447回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 藤村 会長

<唱 和> 「我等の生業」

<ゲスト紹介> *米山奨学生 李世林様

<新会員入会> *森 勇人 会員

<会長報告> *親睦旅行報告

*ガバナー事務所から

・ポリオプラス・ソサエティ登録証およびピンの贈呈

藤村 昌一 会長 高橋 隆一 副会長

・2026～27年度ガバナー・ノミネー選出の件について

・2026～27年度ガバナー・ノミネー候補者提案に関する告知について

・2023～24国際ロータリー第2780地区米山研修日帰り旅行のご案内について

日 時：11月11日(土) 9:00 小田原駅西口(新幹線口)集合

出発時刻：9:30 観光バス乗車

場 所：箱根 箱根観光船、箱根園昼食

三島 米山梅吉記念館研修・見学、米山梅吉墓参り

めんたいパーク伊豆見学、御殿川にて懇親会

・インターアクト年次大会登録のお願いについて

日 時：11月23日(木・祝) 9:30受付開始 10:00～15:00予定

会 場：北鎌倉女子学園中学校高等学校

テーマ：Now for the future ～「比べる」を「尊重」に～

<委員長報告> *雑誌委員会 鈴木(豊)委員長から ロータリーの友10月号

*奉仕の基金プロジェクト委員会 加藤(淳)委員長から

2023～24年度「奉仕の基金(助成金)」選考基準について

<幹事報告> *ガバナー月信 No.4

*例会後 奉仕の基金PJ委員会/VTT特別委員会 開催

<出席報告> *出席委員会 曾我委員長から10月13日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
120名	107名	68名(4名)	39名	6名	68.52%

メイクアップ：植田会員 理事役員会出席、岡田(英)、臼井 両会員 第1グループ三役会出席
北村、小山(陽)、比護 各会員 地区委員会出席

<ニコニコ報告>

・三 役 米山奨学生 李世林さん、近況やこれからの事等々、色々なお話楽しみです。

・大 石、長 島、大野 備、梁 井、齋藤 備、福 西、勝 間、長 尾、権 田、

波 島、田 中、江 口、畑、前 田、Robinson、小佐野、佐久間、澤 田、

田 村、柴 田、齋藤 眞、鈴木 豊、小林 (-)、前 川、小山 備 各会員

米山奨学生 李世林様 米山奨学生のことを会員の皆様にご存知いただける良い機会
だと思います。本日の卓話どうぞよろしくお願いいたします。

・兼 城、小 平、萩 原、波 島 各会員 誕生月祝いとして

・波 島 会員 入会月祝いとして

・三 役 森 勇人会員、本日からよろしくお願い致します。

・竹 株、加藤 備、勝 間、長 尾、福 西、波 島、椿、前 田、上 林、小佐野、徳 永、

田 邊、八 巻、若麻 績、寺 田、杉 浦、佐久間、澤 田、瀬 戸、中村 備、浅 葉、齋藤 眞、

野 坂、齋藤 眞、渡 邊、兼 城、根 岸、山 下、小 沢、岩 崎、前 川 各会員

株式会社法塔ベーカリー 代表取締役 森勇人会員、ご入会おめでとうございます。
共に横須賀ロータリークラブでのロータリーライフを楽しみましょう。

- ・森 会員 入会の承認を頂きありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。
- ・三 役 比護委員長はじめ親睦活動委員会の方々、手配頂きました長島会員、大変楽しい親睦旅行会でした。お疲れ様でした。
- ・石田、木村、長尾、萩原、小平、笠木、高橋、齋藤 眞、二瓶、角井 各会員
藤井聡太七冠、最後に残っていた王座を獲得し、史上初の八冠達成おめでとうございます。勝負の世界は最後の最後まで何が起きるかわからないことを身をもって知りましたね。今後は永世八冠目指して頑張り！
- ・波島 会員 大変長く出席しないで失礼しました。

<卓 話>

米山奨学生 李 世林 様

こんにちは。神奈川県歯科大学6年生の李世林(イ・セリム)と申します。出身は韓国のソウルです。5人家族で、兄弟は1歳下の妹と5歳下の弟がいて、皆韓国にいます。小学3年生から5年生までアメリカに留学していて、中学は韓国に戻ってインターナショナルスクールに通い、高校は普通の女子校を卒業しました。高校を卒業してからは1年間浪人して神奈川県歯科大学に入学し、日本に来て6年目になります。

進学先に日本を選んだ理由は2つあります。1つ目の理由として、初めて日本を訪れた際の経験が大きく影響しました。小学6年生の時、学校行事の交流会で日本に来ました。その際、同年代の日本人とそれぞれの国の伝統的な遊びや音楽を教え合ったり、交流を深める中で、私は日本語をほとんど話すことができませんでしたが、ボディランゲージや絵を描いたりして、言葉を使わなくても心を通わせる経験をしました。この経験は自分の中でとても大きな達成感と異文化との交流の楽しさを強く印象づけ、日本に対して安心感や親しみやすさを感じるようになりました。韓国に戻ってからも日本の友達とメールなどで連絡を取ることになり、日本という国をより近い場所で体感しながら、文化を学んでいきたいと思うようになりました。

これは韓国の伝統楽器であるタンソ(短簫)というものです。竹で細長い筒状に作られています。楽器の上部には穴が開いていて、音が出る部分になっています。また、竹の一端には幕が張られていて、楽器の共鳴を助ける役割を果たします。日本の竹笛に似ていると思いますが、縦に吹くところが違ってきます。

これはコンギノリという韓国の伝統的な遊びの写真です。コンギという5個の小さい石を持ってする遊びなのですが、特別な道具が必要ないので、どこでも手軽に楽しむことができる遊びです。感覚的には、日本のおはじきやお手玉と少し似ているかもしれません。遊び方は、5個のコンギを床に広げ、決まった数のコンギを真上に投げて、それが落ちる前に床にあるコンギを取って落ちてくるコンギをキャッチするゲームです。言葉で説明するとかなりややくいので、動画を用意しました。このようなゲームです。

2つ目の理由は、高校の時です。父は歯科医師で、高校に入ってからには歯科医療について話す機会が増えました。初めての大学受験では歯科大学に進学することができず、がっかりしていた時、父が日本への留学を提案してくれました。父自身も日本の医学書を使って勉強した経験もあり、日本の歯科材料や技術の素晴らしさについて聞いていたことから、より広い視野を持ち、新たな経験をする機会が人生にとって貴重であると感じて留学を決めました。

次は日本と韓国を比べて驚いたことについてお話します。皆さんにとっては当たり前過ぎて気づいていないことばかりだと思いますが、まずはコンビニにあるトイレです。これは日本の便利なサービスの1つだと思います。コンビニのトイレを使ったことがないと言う方は少ないと思います。急に便意を催してトイレを探すようなときは便利だと思います。先日、腸炎を患い病院へ向かっていた時は、何度も緊急事態に陥り、近くにコンビニがたくさんあったおかげで助かりました。韓国ではトイレが備わっていないコンビニも多く、備わっていたとしても清潔さに欠ける所が多いです。それに比べて日本のコンビニのトイレは、清潔に整備されていて、多くの人に安心感を与えていると思います。

次は自動販売機の多さです。自販機は私たちに飲み物や軽食を提供し、特に暑い夏や寒い冬には便利です。24時間いつでもどこでも利用できることから、非常にアクセスしやすく、急な渇きや小腹が空いたときに役立ちます。飲み物の自販機だけでなく、アイスやおやつ、ラーメン、お肉などいろいろな種類の自販機があるのは日本の特徴だと思います。調べてみると、2021(令和3)年時点ですが、日本の自販機の数

約270万台でした。世界で最も自販機の設置台数が多い国はアメリカですが、次が日本で、自販機1台当たりの人口は30人となっていて、人口で見ると1位でした。先日も自宅から例会場のある商工会議所まで30分掛けて歩いてきた時に自販機を数えたところ18台ありました。普段は気にしていませんでしたが、こんなにも多くの自販機があることに改めて驚きました。

そして、バリアフリーな環境がしっかり整っていることです。日本は高齢化が進んでいて高齢者に対する施設や障がい者に対する配慮が進歩していると思います。駅務員が視覚障がい者を案内し、降車時もきちんと引き継ぎができていたり、電車での車椅子利用者に対するサポートや高速バスでも車椅子をリフトで乗せてくれるサービスを見た時は、ものすごく感動しました。このようなバリアフリーの環境は、全ての人々が公共交通機関を利用できるようになり、誰もが自分らしい生活を送ることができる社会にするための重要なステップであると思います。この写真は海老名サービスエリアでバスリフトを初めて見た時にびっくりして撮った写真です。調べてみたのですが、韓国では2019（平成31/令和元）年からサービスを試行していましたが、中断になったそうです。

次は、私が歯学部を選ぶようになった話をします。歯科医師になりたいという目標を持つようになったのは、父の影響が大きかったです。父は歯科医師という仕事だけでなく、医療ボランティア活動にも積極的に参加しています。その中で海外での医療ボランティアに毎年行っていて、私も小さい頃から一緒に何度か行き、医療チームの一員として参加した経験があります。歯科医だけでなく、内科医、整形外科医、薬剤師、看護師など多くの医療専門家と連携し、患者さんへ医療を提供しました。私が行ったのは、カンボジア、フィリピン、ラオスなどで、現地の病院を借りてボランティアを行うこともありましたが、医療支援が必要な田舎にも行きました。まだ小さかった私は、患者さんの案内、器具の清掃、ライトやバキュームの補助などを担当しました。現地の医療施設は劣悪な状態でしたが、父と医療チームは限られた設備の中でも最善の医療を提供するために全力を尽くしました。ユニットの代わりにサンベッドを使い、ヘッドライトとフラッシュライトを使って診察していました。私たちが同じ場所に何日かいたときは、地元の人々から医療ボランティアチームが来たという噂を聞き付け、母親が子どもを連れて何時間も歩き通して来たのを覚えています。私たちの国では簡単にどのような医療サービスでも受けることができますが、この人たちにとって私たちの存在は人生の貴重な機会であって、それを実感した瞬間でした。今の私たちの状況に感謝し、もっといろいろな人を助けたいという気持ちが芽生えました。医療ボランティア活動もその一環として積極的に行い、社会への貢献を実現したいと考えています。その意味でロータリークラブに関わるようになったことは、すごく光栄であり、機会があれば一緒に活動したいと思います。まだ短い期間ですが、ロータリーの交流を通じて社会奉仕の重要性に改めて気づくこともできました。ロータリークラブの多彩なプロジェクトと様々な分野で活躍しているロータリアンの皆さんを見て、地域社会や国際社会への貢献の重要性を感じました。個人的な利益を求めめるのではなく、他人のために社会に貢献することを実行していることから、私も同じような価値観を持つ人になりたいと思いました。

最後になりますが、いつも例会に送り迎えして下さるカウンセラーの齋藤眞且さん、学校でいつも応援して下さる江口さん、卓話前に緊張をほぐして下さった高橋副会長、そして毎回笑顔で迎え声をかけて下さる横須賀ロータリークラブの皆さんに感謝申し上げます。ご静聴くださりありがとうございました。



<閉会・点鐘> 13:30 藤村 会長

週報担当 大石 朗